

第1分科

第1分科会 団塊世代の「今日」と「明日」

白井 敏男

(元朝日新聞社 論説副主幹)

[パネリスト]

高川 弘幸：男声合唱団「西南シャントウール」事務局長

石橋 哲治：KBC お天気キャスター、博多にわか五月会会長

福山 智美：ラジオ・パーソナリティ

書 記

丸井 健生：NPO 法人 AABC



●VTR RKB 女性合唱団「川の流れのように」

白井：昨年秋、西南シャントウールの定期演奏会に賛助出演した RKB 女性合唱団の歌声でした。本日のコーディネーターを務める白井です。昭和 24 年生まれ。団塊の世代の一人です。

今年 1 月に朝日新聞社を定年退職し、再雇用でパートタイムの記者をやっています。夕刊の一面の「ニッポン人脈記」を担当して、今年 6 月から 7 月にかけて、学生運動に

参加した団塊の世代を取材しました。そういう縁もあってここに座っています。

70年代から80年代にかけて、4年間博多で仕事をしました。亀井知事から奥田知事に変わる時期でした。当時は西公園や星の原団地あたりに住んでいました。

団塊の世代は、一般的に1947年（昭和22年）から49年（昭和24年）にかけて生まれた世代を指して言われます。

図は1950年の人口ピラミッドですが、0-4歳のところの大きな塊がそうです。

2000年の人口ピラミッドでは55～59歳の部分で、他の年代に較べると圧倒的に多い。

次に2050年の人口ピラミッド。いまから40年後、私がちょうど100歳のときです。樋口恵子さんは、これからは人生100年の時代だとおっしゃっています。

パネリストの高川さん、石橋さんは私と同じ団塊の世代。いずれも男性ですが、福山さんは一回り若い女性で、女性から見た団塊の世代批判を、辛口でやってもらいたいと思います。

高川：男声合唱団「西南シャントウール」の事務局長をしています。1947年4月生まれで62歳。団塊の世代のハシリです。博多生まれの博多育ちです。

われわれの世代はとにかく数が多く、中学校の1学年が15クラスあり、中央区では24クラスのところもありました。

西南高校、西南大学を卒業し、35年間富士ゼロックスで働いて定年となり、福岡に戻ってきました。

西南シャントウールは、西南学院大学OBによって1954年（昭和29年）に結成された男声合唱団ですが、5年前にメンバーがゼロになってしまいました。5名が中心となって再建し、現在総勢69名。39歳から79歳のメンバーがいます。平均年齢は65.5歳です。

毎年このアクロス福岡のコンサートホールで定期演奏会を行い、満員の盛況です。

西南シャントウールのマネージャーを務めるかたわら、地元ボーイスカウトの育成活動にも力を入れています。

石橋：1950年3月に福岡市西区の能古島で生まれました。

父が50人乗りの渡船の船長で、船を出すか出さないかは船長がその日の天候を見て決めるのですが、現在の仕事については父の影響があったかなと思います。

趣味は「博多にわか」で、高校3年のときからやっています。

五月会から誘いがあり、7年前に入りました。五月会とは、福岡で毎年5月に行われる祭り「博多どんたく」に参加しようということのできた団体です。

三味線も3年前から始めました。

「博多にわか」は、半面をつけた二人以上の演者が博多弁で時の世相を即興で風刺する

市井の芸能です。江戸時代に年一回、町民が政治について一言仮面をつけて言うという習慣から生まれました。

「博多にわか」のほかに、能古島でソフトボールの監督兼プレーヤーをやっています。

福山：1960年、博多生まれ、皆さんよりも一回り若い世代となります。ラジオのパースナリティをやっていて、子どもが2人です。英語を生かし、国際会議の通訳等も行っています。

高校卒業の頃は女が大学を出ても就職がないといわれていた時代で、アメリカにいた叔母を頼って渡米し、短大を卒業しました。

帰国後、海外ミュージシャンが来福したときの通訳をまかされ、以後、音楽番組やスポーツ番組の仕事をしてきました。現在FM福岡、RKB毎日放送で番組を持っています。

これまでで一番の誇りは、クリントン元大統領が来福したときに通訳をしたことで、そのときはもう現職ではなかったのですが、まず通訳のところにサッと来られて、最初に握手を求められました。この人のために頑張ろうという気にさせられ、人心掌握術にびっくりしました。

●団塊の世代とは何なのか

白井：まず、団塊の世代とは何なのかを考えてみたいと思います。

堺屋太一さんが、1947年（昭和22年）から49年（昭和24年）にかけて生まれた世代を団塊の世代と名付けました。

パネリストの高川さんが昭和22年、私が24年1月。石橋さんも25年3月生まれ、学年的にこの世代に入ります。

中学校の話が出ましたが、すし詰め教室で、大学入試も就職も大変でした。ひしめきあって暮らしてきたという思いがあります。

別名「ビートルズ世代」「全共闘世代」とも呼ばれています。

高齢化したときには社会問題が発生するといわれています。

2007年の大量退職により、新しい消費の波が来ると思われたが来なかった、意外と財布のヒモが堅い、財産とお金はあるけれども節約志向で、その反面、趣味に遊びを使うことは厭わないといった分析があります。

団塊の世代から見た団塊の世代の特徴とは何か、そして一回り下からはどう見えるかについて話し合いたいと思います。

高川：団塊の世代とひとかたまりにされるのはいい気がしないのですが、同世代を見る

と、「ガムシャラ世代」といえるのではないかと思います。仕事も、遊びも、結果を恐れずに、何をやるにしてもガムシャラ。

仕事も、与えられたことだけをやるというのではなく、自分のやりたいことをやっていく。

飲むにしろ遊ぶにしろ、とにかく無茶をやる。

そういうことをしても社会が認めてくれる時代だった。

石橋：年功序列。目上の人を立てる。

ファミコンのように2、3人でできる遊びはなく、野球、鬼ごっこ、戦争ごっこなど、遊びの中にも縦割りの社会があったからだと思います。

白井：ガムシャラということではそうかもしれません。

数が多く、押し合いへし合いしながら生きてきた。

高校から大学になったとき、高度経済成長がちょっと落ち着いて、時代の転換期がきたという感じ。学生運動をやった人たち取材して感じたのですが、焼け跡から高度経済成長を経て、60年代の終わりに転換期を迎えた。公害問題が出てきて、日本はこのまま進んで良いのか、経済のみでいいのかという時期にさしかかった。それが青春時代と重なった。前の世代に対する批判もあった。新しいことをやろうという動きが出てきた。

今日はお二人ともGパンですが、われわれの世代は、Gパンを普通にはく世代なんですね。上の世代には日頃からはくという習慣はなくて、それはわれわれから。

ビートルズ世代であり、ロック世代でもある。それまでにない新しいことを始めた。また、数が多いので、ヘンは人も多い。いろんなものがあの世代から生まれた。

福山：二つの点で、団塊の世代の方々には感謝しなければならないと思っています。

まず、Gパンを普通にはいてもいい、ロックを聴いてもいいという時代を作ってくれたこと。

二つめは、数が多く、政府に反対し、世の中を変えてくれたこと。

このことは感謝しなければならないと思います。でもそのあとの締め付けが厳しかった。制服・鞆等々に関する厳しい規則ができた。先輩たちが好き勝手やったツケがこちらにきた（笑）

先輩たちは、私が小学校一年生のとき大学生でした。大人になれば10歳の差は小さくなると思っていましたが、まっすぐに、ガムシャラに生きてこられた団塊の世代の方々に対しては、いまでもその差が大きいと感じています。追いつけない。すごい人たちだと思います。

●団塊世代が経験した時代

→戦後から現在まで、写真を見ながら会場と意見交換

- ・1945年（昭和20年） マッカーサー、西鉄電車に乗って遊ぶ米兵・福岡市内の焼け跡
- ・1946年（昭和21年） 新憲法発布・博多どんたくと祇園山笠復活
- ・1950年（昭和25年） 朝鮮戦争勃発
- ・1951年（昭和26年） サンフランシスコ平和条約
- ・1953年（昭和28年） テレビ放送開始
- ・1954年（昭和29年） 三種の神器・第五福竜丸被爆
- ・1955年（昭和30年） 保守合同・自由民主党誕生
- ・1959年（昭和34年） 皇太子殿下のご成婚パレード

高川：ここらあたりから知っている。テレビでやっていました。

- ・1960年（昭和35年） 安保国会・安保闘争、天神ビル誕生

白井：このへんは懐かしいのが多い。

- ・1961年（昭和36年） 西鉄福岡駅誕生
- ・1963年（昭和38年） ケネディ暗殺

高川：日米のテレビ回線が結ばれて、第一報がこのニュースでした。やらせだと思い、それにしてもなんでこんな内容なのかと思いましたが、事実でした。

- ・1964年（昭和39年） 新幹線東京・大阪間開業、東京オリンピック開催
- ・1966年（昭和41年） ビートルズ来日

白井：このあたりからGパンとVANがはやっていました。

- ・1967年（昭和42年） ミニスカート大流行
- ・1968年（昭和43年） 学園闘争・三億円強奪事件

会場から（男性）：九大工学部に米軍のジェット戦闘機ファントムが落ちたのはこの時期。

- ・1969年（昭和44年） 沖縄返還合意・アポロ11号月面着陸
- ・1970年（昭和45年） よど号事件

白井：福岡空港にいったん降りて、それから北朝鮮に向かったんですね。

- ・1972年（昭和47年） 日中国交正常化・札幌オリンピック
- ・1973年（昭和48年） 石油ショック、インフレ
- ・1975年（昭和50年） 山陽新幹線・博多へ
- ・1976年（昭和51年） ロッキード事件、天神地下街オープン

福山：天神地下街オープンは、傘を差さずに天神を歩けることに感動。

- ・1981年（昭和56年） 福岡市市営地下鉄開通

福山：地下鉄は東京のものだと思っていました。

- ・1986年（昭和61年） 中曽根総裁のもと総選挙で自民300議席
- ・1987年（昭和62年） JR発足 国鉄分割民営化
- ・1988年（昭和63年） 福岡ダイエーホークス誕生

福山：福岡ダイエーホークスは中内社長の頃。このころ福岡はまだライオンズファンが多かった。

- ・1993年（平成5年） 皇太子ご成婚、宮沢内閣不信任、細川内閣発足
- ・1995年（平成5年） 阪神大震災
- ・2001年（平成13年） 米、同時多発テロ
- ・2003年（平成15年） イラク戦争
- ・2005年（平成17年） 郵政解散 小泉内閣圧勝
- ・2008年（平成20年） オバマ米大統領就任
- ・2009年（平成21年） 鳩山内閣発足

白井：振り返ってみて、一番印象に残っているのは？

高川：やはり安田講堂を中心とした安保闘争。火炎瓶を投げたりはしなかったですが、参加しなければ、今やらなければ自分たちが壊れそうだ、社会を良い方に変えなければという衝動に突き動かされていました。

石橋：学生運動には関心が薄く、アポロ 11 号の月面着陸が一番印象に残っています。二十歳の時で、月に人間が降りたことにものすごく感動した。

福山：いまでも鮮明に憶えているのは浅間山荘事件。

当時中学生で、具合が悪くて休んでいて、テレビで一日中、鉄球で家を壊している映像を流していた。中にいる人も外にいる人も、大人たちは何をしているのだろうというイメージが頭の中に残っています。

●現在の活動と将来につて

白井：パネリスト 3 人の、男声合唱団、「博多にわか」、パーソナリティという現在の活動が、今後の人生においてどういう意味を持つとお考えですか？

高川：高校の時に男声合唱団を見て大きな衝撃を受け、それ以来自分の趣味として続けてきました。なんでも 20 年続けると「生きがい」に、30 年続けると「やりがい」になると言われていますがまさにそのとおり。

仲間がどんどんできるし、西南シャントゥールをこれからますます発展させたい。

石橋：高校の頃は人前に入るのは苦手でしたが、「博多にわか」をはじめようになって、人前でもあがらなくなった。プラスになっています。

また、同じ趣味の仲間がいることは人生に大いにプラスになっています。今後、団塊の世代やほかの世代にも、「博多にわか」を広げていきたいと思っています。

福山：仕事は生きがい。「パーソナリティ」は若い人が多いが、この仕事をやっていることによって、こういう席にも呼んでもらえるし、いろいろな人と出会うチャンスを与えてもらっている。できるかぎり続けていきたい。

また、いま住んでいる前原市で公民館や演芸会の司会をやっています。老いたときに住みやすいまちであってほしいと願っており、地域と人々と一緒にまちづくりをしたいと考えています。

趣味と仕事・家庭

白井：趣味には時間もお金もかかりますが、仕事や家族との関係はどうですか。

高川：最優先は仕事です。

仕事もうまくいかないと、趣味もうまくいかない。

家族を大事にする人でないと趣味にならない。

西南シャントゥールに来られている方々は、そういう問題がない方々です。

1番が仕事、2番目が家庭、3番目が趣味。

石橋：まったく同感です。

福井：私は主婦という立場なので、家庭を犠牲にしている部分はあると思う。

しかし75歳の母親がいて、非常に助かっている。

小学校と中学校の子供がいますが、特に下の子供にとって、おばあちゃんがいることは精神的にとっても意味があります。ものを知らない自分に代わっていろいろなことを教えてくれます。

白井：新聞記者を長く続けてきたが、忙しいのがとりえで、家庭を顧みず、趣味らしいものを持ってないので、いま困っています。

家では、皿洗いと洗濯が自分の役割。

退職するとき、週2回は出勤、あとの5日は家にいようと思って、昼食と夕食のどちらかは自分が作ると妻と約束しました。しかし今年1年は忙しくて、来年までおあずけになっています。妻は手ぐすねを引いて待っている（笑）。

● 団塊の世代の「いま」

白井：われわれの世代は、親をそろそろ看取らなければならない時期にさしかかっています。

同年代の人達と話をする、親が寝たきりになったとか、病気になったとか、この前亡くなったとかの話題になる。

また、孫ができ、その面倒をみななければならないという話もよく出ます。

団塊の世代の「いま」については皆さんどうですか。

石橋：能古島に実家がありますが、父は26年前に亡くなり、母はことし86歳でまだ頑張っています。昨年春にペースメーカーの手術をしました。

平日は退職した姉が世話をし、週末は私が顔を見に行っています。月に1回は、能古島から博多区にある病院に連れていっています。

現在私は仕事の関係で中央区に住んでいますが、はやく能古島に戻りたい。

子供は 22 歳と 19 歳で、上は保育士、下は大学 2 年生。大学を卒業するまでもうすこし頑張らないといけない。

高川：博多育ちですが、実家は篠栗町に移り、母親が一人で住んでいます。80 歳を越しますがけっこう元気。子供は 3 人。長男は東京。下の 2 人も結婚して、手が離れています。

白井：千葉の我孫子に住んで 7 年。住み始めて 2 年ぐらいしてから、妻の両親に、隣の空いた土地に引っ越してもらった。

妻の両親は鹿児島で、母が重い認知症にかかり、骨折して歩けなくなったのを 80 を超える父が面倒をみていた。いわゆる老老介護でとても無理だということと、いざというときにこちらが鹿児島まで行けないということで、隣に家を建ててもらった。

妻と妻の父が母を 5 年間介護し、今年の夏に亡くなりました。同居ではなく、隣に住んでいるということで、かなりうまくいったと思う。同居だと、世代間の感覚、考え方の違いがあり、難しかった。

私の父は、以前に亡くなっており、母は岡山で暮らしています。動けなくなったら、母も隣に来てくれるように言っています。

妻の父、私の母、あと二人を看取らなければならない。一方、娘が来年 2 月に出産で、孫の面倒を見ることを期待されています。

妻からは食事と洗濯、娘からは孫の面倒ということで、労働力として期待されている状態です。

福井：団塊の世代の男性にとって、そういう期待は大丈夫なんではないでしょうか。男子厨房に入らずというイメージですが。

高川：抵抗はないです。

石橋：その現役で、妻が週に 2,3 日アルバイトに行っているときは、食事の用意をしています。

会場（女性）：夫も自分も団塊の世代だが、自分のことは自分でしてもらっている。

福井：女性もそういう意識の人が多いのでしょうか。

白井：たぶんそうだと思う。仕事があるのでできないだけで、ひまになったらやるのが

当然という考え。

福井：その下の世代になると女性がどんどん強くなって、トイレを汚さないように座って用を足す男性が 1/3 だというし、夫がゴミを出すのは当たり前、休みの日は子供を見るのが当たり前になっている。

会場（男性）：男子厨房に入らずというのは明治大正生まれの世代ではないか。

私は団塊の世代より上の昭和 2 年生まれだが、家内が困っていたら手伝う。自分から進んではやらないが。

会場（男性）：戦中生まれだが、抵抗はない。

白井：先輩の方々の目から団塊の世代はどう映っていますか？

会場（男性）：自分たちは、戦中・戦後のモノがない時代を過ごしてきた。その目からすると、団塊の世代は贅沢に映る。

白井：たしかにわれわれは経済成長の波に乗り、ものが豊富になった時代を生きてきた世代。

●今後の仕事と趣味について

高川：仕事は絶対に続けたい。家にじっとしていることができない。団塊の世代の性格だと思う。

現在、月から金まで、九大図書館の集配と整理を引き受けていますが、仕事をするという事は面白い。

石橋：定年はないのですが、声が出なくなるまで天気キャスターの仕事の続けたいと思う。あと 10 年はやりたい。

70 歳を越したら、町内会長などをして、地元で恩返しをしたいと考えています。

白井：私は今年 1 年間フルタイムの仕事をして、その後は週 2 回ぐらいに減らし、それ以外の時間は学生時代に戻って、ふらふらと町を歩いたり、興味のあることを勉強したい。

大学卒業までが第 1 期、社会人が第 2 期、退職してからが第 3 期だと思う。

第3期は第1期に戻り、世の中に関心を持って、多少アルバイトをやりながら社会に参加する。

大学に入って3ヶ月でストライキになって勉強はあまりやらなかったが、そういう怠け者の大学生に戻ろうと思います。

●10年後、20年後の自画像について

高川：20年後は80歳になっているが、想像もつかない。

社会保険事務所の人から面白い話を聞きました。75歳まで生きないと年金のメリットがないということなので、75歳までは頑張らないといけない。

前半の10年はいまの合唱団の活動を発展させたいと思う。そのあとは社会貢献活動としてボーイスカウトの活動にシフトしていきたい。もちろん仕事は続けた上です。

石橋：10年後は能古島で移動屋台でもやっているのではないか（笑）。

真面目な話、気象の世界で35年過ごしてきた。それを生かしてお天気センターを作り、地元の情報提供できたらいいなと思っています。

福井：いまの話を聞いて、団塊の世代がつくづくうらやましいと思いました。

子供が小さいので、あと10年は頑張らないといけないが、そのとき60歳で一般的には定年の年代です。けれどもこの不況の時代、そのときに自分も夫も仕事はどうなっているかわからない。これから10年どうやっていけばいいのだろうと考えたら、その時期を10年前に終えている団塊の世代はほんとうにうらやましい。

そういう厳しい時代、残り10年をどうやったら明るく前向きに生きていられるか、団塊の世代の方々にお聞きしたい。

高川：なに考えていないけれども（笑）、60歳で退職したが、すごくいいタイミングだったと思う。5,6年後だったら大変だった。そう実感されている人も多いのでは。

白井：要するに団塊の世代がいいところだけ取って逃げてしまったと（笑）

それに近いところがあるかもしれない。

生まれた1947-49年頃は博多も焼く野原だったが、少しずつ復興していった時代。戦争イメージは残っているが、ずっと右肩上がり、昨日よりも今日がいい、今日よりも明日の方がいいという時代。

大人になって40代、50代になったときも経済的にはいい時代で、「坂の上の雲」ではないが、坂の上が見えていた。坂の上に上がればなにかいいことがあると思っていた

時代。そういう時代が 1980 年代まであった。

学生運動も、貧しいから反乱したわけではなく、豊かな時代の反乱だった。ほんとうに豊かな時代なのかという疑問があって運動につながったのだと思う。

90 年代以降、景気が悪くなるが、その前に仕事も会社も店じまいしてしまったのがわれわれの世代。

福山さんの世代は、10 年ぐらい遅れてきて、悪いところにぶちあたったという感じがあるのではないか。そういう意味では下の世代から恨みを買っているのではないかという気はする。

福山:ただ、こちらが 50 になっても団塊の世代に手が届かないという思いがある。60、70 になってもそういうイメージでいると思う。

開拓者である団塊の世代にから、いいアイデアをもらいたいと思っています。

会場との質疑応答

会場（女性）: 団塊の世代の昭和 22 生まれ。老人福祉施設に勤めています。

団塊の世代については、年金があって、蓄えがあってということが前提でのお話だったように思います。

その陰で若い人達は、たいへんな仕事をしていても給与が低く、また仕事がないという状況です。

老人ホームに入っている方々は、団塊の世代よりももう少し上の世代で、年金がたくさんある人も多いのですが、その年金額と職員の給与の低さを比べてみると、とても忸怩たるものがあります。

われわれは福祉の人間なので、世界で一番幸福度が高いというデンマークに行ってみました。デンマークの施設でお年寄りが言った言葉がずっと心に残っています。

デンマークは施設も食事もたいへん質素だったのですが、「もう少し、して欲しいことはないですか」と聞いたところ、「われわれがこういうことをしてくれと言えば言うほど、若い人達の税金は増えるんですよ」

デンマークは福祉も教育も医療費も無料ですが、そのかわり税金が非常に高い国です。われわれは成熟した社会の大人として、すこし考え直さなければならないと思います。われわれは戦後すぐ焼け野原から立ち上がってきたときの私たちではないはずです。

今日堀田先生がおっしゃたように、そのときはお金をどんどん稼ぐことが第一命題だったかもしれませんが、いまは先進国と呼ばれて、大変豊かな国民ですが、少し頭を切り換えていかないと、われわれの生き方によって若い人達を潰してしまうのではないかと、と思います。

会場（男性）：戦前・戦中生まれだが、高度経済成長に毒され、贅沢が身に付いてしまった。もっと質素になって若い人の負担を減らさなければならないと思う。

福井：われわれの下世代、さらにその子供達は、贅沢・平和を当たり前のことのように考えています。いまに大変なことになる、それを厳しく教えていただけるとありがたいと思います。他力本願で申し訳ないけれど（笑）。

会場（女性）：昭和28年生まれです。昭和30年を境に、いろいろな選択肢が増えて共通の話題がなくなったように思います。子育てが終わった頃から不況が始まって、夫も私も10年後がまっくらな状態です。

会場（男性）：みなさんより10年早い昭和14年生まれです。

男子厨房に入らずという話がありましたが、私の場合はそれを徹底的にやられました。10年前に会社を定年退職し、趣味は写真です。

社会に役立つことをと思って、シルバー人材センターに入りましたが、公的な団体なので思うように動けず、自分でLLPを作って生活支援の活動を行っています。

また西南大学の先生と「高齢者福祉を考える会」を作って活動しています。

また、福岡市の男女共同参画の条例を作るのに6年ぐらい関わった後、学童保育や延長保育に関する活動を行ってきました。

去年から福岡市の青少年育成活動として、団地のグラウンドを使ったキャンプを行っていて、中学生が50名以上参加しています。これは中学生の居場所を作っているいろんな体験をさせるためで、われわれの年代に声をかけて集まってもらい、子供たちにいろんなことを教えています。

お父さん達にもっと参加してもらいたいので、今日はどうやったら誘い出せるのかをお聞きしたいと思ってやってきました。

会場（女性）：団塊の世代の上世代で、60代です。夫も同じです。

60歳で定年退職したときに民生委員を引き受けました。

ここに集まっている方々は、自分から外に働きかけていこうという方々ですが、定年退職したあと抜け殻になってどうしたらいいかわからない男性も多いのです。私の知人の奥さんは、ご主人が順調に出世して会社仲間も家に遊びにきていたのですが、退職後は誰も来なくなり、自分に当たるので困るとグチをこぼしていました。

民生委員として地域の高齢者に関わってきましたが、地域に顔を出し、いろいろなことをやっておられる方はいいのですが、そうでない方もいる。奥様が亡くなられて一人になって、近くに子供がいても来ない。私どもが見守りで訪問しても、家の中が散らか

っている。デイケアがありますよと言っても、「市の職員だったからそんなことは知っている」とおっしゃるけれども、なかなか動こうとしない。

そういう方がみなさんの地域の中におられるということを考えていただき、どうしていくかについて考えてみることも、これからの高齢社会でみんなが生き生きと幸せに、安心安全に暮らしていくことにつながると思います。

そういう実情を知って、地域の中に引っ張り出すために皆さんの力を貸してほしいと思います。

福井：前原市に住んでいますが、家族と同居しているが昼間は一人というお年寄りの情報が行政に来ていないのではないのでしょうか。

ご本人は、相談連絡先を教えてくださいと希望していても、家族の方では、われわれがいるから大丈夫とおっしゃる。

会場（女性）：福岡市の場合は、そういう方々も把握しています。災害時要援護者台帳の事業として、年に1度市からリストが来て、2~3ヶ月かけて、訪問調査をするシステムになっています。

高川：篠栗に母が一人で住んでいますが、民生委員の方が諦めずに訪問され、声をかけていただいたおかげで、いつのまにか近くのクリエイト篠栗という交流施設に通うようになりました。

民生委員の方々には重荷かもしれないが、あきらめずに声をかけることが一番の近だと思います。

白井：最後に同じ団塊の世代に向け、一言ずつお願いします。

高川：団塊の世代に対し、二つのことを伝えたい。

ひとつは、あとどれぐらい先があるか分からないけれども、もうひと頑張りしようということ。

2つ目は、何事も諦めないこと。いまここに自分が立っているのもその結果だと思います。

石橋：健康ですね。

40代の頃、接待で体を壊すぐらい酒を飲みましたが、その後週に1,2回はお酒を断つようにして4,5キロ痩せました。

まず健康に気をつけてほしいと思います。

福井：団塊の世代の方々にはこれからも元気で頑張ってもらい、われわれにエネルギーを与えてほしいと思います。

臼井：われわれの上の世代も下の世代も、〇〇世代と呼ばれず、良くも悪くも、われわれだけが際だって話題になります。

それは、まず第一に、経済的によい時代を生きてきたということ、第二番目に、戦後すぐに生まれてきたので、直接戦争は知らないものの、平和について敏感な世代であるということ、平和な時代も戦後の焼け跡も肌身で知っているということ、三番目に、数が多いということ、すなわちエネルギーがある、もうひと頑張りすれば大きなことができる、上の世代に対しても、下の世代に対しても手を差し伸べることができる、そういう世代であるからだと思います。

仕事は一段落し、時間はあるし、エネルギーは残っている。戦争、平和、豊かさ、貧困など、社会的なものに対する関心もわりあい強い。

あと 20 年ぐらい生きることができると思うので、社会の中で働くことができると思いますし、またそうしなければいけないと思います。

博多手一本で終了。

